# タブレット交換の残る因美線を訪ねて

34 期 梶本和男

**そ**の昔、JR 因美線(岡山-鳥取)ではタブレット交換をやっていました。現在は自動信号設備が整備されて消えましたが、1996 年(H8 年)当時はこの因美線に残っていました。

その頃、私は「撮り鉄」をしていて色んな線区の鉄道写真を撮っていたのでその時の思い出をご紹介します。

タブレット(写真の手に持つ黒い部分)とは、直径 10cm、厚さ 1cm の丸い砲金板で、これを持つ列車のみが次の駅に向かえる仕組みです。

単線では駅と駅の間ですれ違うことが出来ず、待避線のある駅ですれ違うことになります。すれ違った後は、列車は次の駅へ進行できるわけでこの時、次の駅まで対向列車がいないことが前提となります。そのために、路線を交換設備のある駅ごとに区切り、その区間に入るには「タブレット」を持った列車しか入れないようにしている訳です。駅では停車した列車から駅係員がタブレットを受け取り、待避線にいる反対方向へ向かう列車に渡します。これにより待避線の列車は次の駅に向うのです。

**急行「砂丘」の通過する美作河井駅にて受器にタブレットを投げ込む**

**授器に取り付けられたﾀﾌﾞﾚｯﾄに狙いを定め掬い取る**

駅に停まらず通過する急行列車の場合はどうするのか？　速度を落として駅を通過しながらタブレットを受器に投げ込み、ホームの端で授器からタブレットを掬い取り次の駅へ向かうという“すご技“をやっているのです。ここで撮り鉄の威力を発揮するのが 300mm の望遠レンズです。ホームの端でタイミングを測りながら撮ったのが上の写真です。

**《最後に》**現在もタブレット交換や腕木式信号機が残っている路線をネットで調べると、ストーブ列車で有名な津軽鉄道、愛知県半田市の衣浦臨海鉄道があるようです。今でもこれらの鉄道にタブレット交換が残っていると知ると、行ってみたい気もしますが、この年になって“撮り鉄“は、時間的にも体力的にも無理なようです。ただし、お金だけはありますが‥(笑)